

定例市長記者会見録

日 時：8月24日(木) 午後1時30分～2時

場 所：本庁舎6階 特別会議室

出席者：一宮市 中野市長、福井副市長、山田副市長

報道機関 中日新聞、朝日新聞、読売新聞、NHK、中部経済新聞、共同通信社

本日の案件は2つです。

1番目は「シン学校プロジェクトについて」です。

小中学校の校舎の老朽化が進み、何とかしたい思いがあります。コロナ禍を乗り越え、基金の目処が付いてきたこともあり、小中学校の校舎を積極的に更新していく「シン学校プロジェクト」というものを立ち上げます。

市内には61の小中学校があり、築60年以上の校舎がある学校は23校で、全体の3分の1以上にあたります。一番古い校舎は小信中島小学校と北部中学校の2校で、昭和29年に建築され来年で築70年になります。ただ、子どもが減っていく中で、単純に古くなったから新しく建て替えるのは通用しない時代になり、分野を超えて幅広くいろいろなことを議論・検討したいということで、このプロジェクトを始めます。

第1期プロジェクトとして、令和6年から10年ほどのタイムスパンを視野に入れて計画する考えで、予算規模は少なくとも150億円はかかると見積もっています。財源については、公共施設整備等基金が80億円程度あり、すべてを小中学校の予算に充てられるわけはありませんが、約45億円をこの基金から使いたいと考えています。国費を60億円程度は活用し、基金45億円と市債45億円の合計150億円ぐらいで、小中学校の校舎建て替えを考えていきたいと思っています。

議論の進め方に関しては、7月に庁内のプロジェクト委員会を立ち上げました。教育部門だけでなく、他の分野も巻き込んで議論していきます。文部科学省の補助金も、学校の建て替えでは補助率が3分の1ですが、他の分野の施設を合築する場合は補助率を2分の1に上げるという方針が出されていますので、公民館や福祉施設、児童館、放課後児童クラブなどとの共同利用も、それぞれの地域で議論してもらえたらいいと考えています。また、11月にキックオフミーティングを開催します。具体的には令和6年度の議論・検討が中心になってきますが、まずは、一宮市が本格的に小中学校の建て替えに力を入れ、単純に古くなったものを新しくするのではないというところを打ち出したいと、一風変わったタイトルにしました。1人でも多くの市民の皆さまに考えてもらいたいと思っています。

2011年の南部中学校を最後に、12年以上小中学校を建て替えていません。2市1町の合併後、公民館や本庁舎、駅ビル、総合体育館などを建設しましたが、小中学校は後手に回っていますので、ここで思いきりアクセル踏んで進めていきたいと思いプロジェクトを始めさせていただきます。

2 番目は「令和 5 年度 9 月補正予算(案)に計上された主な事業」です。

主なものをいくつかピックアップしてご紹介します。

No. 3 「障害福祉サービス事業所等への原油価格・物価高騰対策事業」

国や県の支援対象から外れる訪問系の障害福祉サービスや介護サービスの事業所に市独自で支援金をお配りするものです。また、電力エネルギー価格高騰の影響を受けている水道事業においても、一般会計から繰出金を入れることにしています。

No. 4 「公立保育園の机・椅子を抗菌仕様に買替え」

新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を使って対処します。

No. 5 「一宮駅東口の混雑緩和対策」

一宮駅の東口の改善・改修です。i-ビルが 2012 年にオープンし、10 年以上経ちますが、不具合やいろいろな声がありますので、ここで混雑緩和のためいくつか手を入れます。

一つ目が、i-ビル駐車場のシステム改修です。ナンバープレートをカメラで読み取るシステムで、チケットの発行が不要になり、料金も事前精算機で払えるようになります。今は出口での現金精算で、そこで時間がかかり行列ができてしまうため、システム改修をさせていただきます。

二つ目が、駅東口ロータリーの動線分離などです。東口ロータリーの出口と i-ビル駐車場出口で車両が入り乱れているところがあり、その動線をはっきり分ける対処をさせていただきます。

最後の三つ目が、入場から 20 分間無料の駐車場を i-ビル駐車場から地下駐車場に変更します。i-ビルの駐車場は送迎利用の車両が多く、混雑の原因になっているため、i-ビル駐車場の 20 分間無料をやめて、代わりに地下駐車場に停めて送り迎えをしていただけるよう地下駐車場を 20 分間無料にさせていただきます。

No. 8 「シン学校プロジェクト事業」

具体的には、令和 6 年度に主にデータの収集や整備、市民の声を聞きながらいろいろなシミュレーションを行っていきます。コンサルティング会社に委託する限度額約 1,300 万円を令和 6 年度までの債務負担行為として設定させていただきます。

No. 9 「部活動地域移行体制づくり事業」

休日部活動の地域移行に向け、稲沢市に本拠地がある「ウルフドッグス名古屋」や、地域クラブ活動の受け皿となるサッカー・剣道・柔道・吹奏楽の 4 団体さんを通じて実証事業を行います。

No. 11 「財政調整基金積立金」

令和 5 年 3 月末時点では基金が 70 億円ありましたが 4 月に 25 億円を取り崩しましたので、今 45 億円ほどになっています。今回少し余裕を見て、12 億円をこの基金に積み立てることにしました。

最後に単行議案について、9 月市議会定例会単行議案の主なものです。

「議案第 62 号」

お墓の関係です。これまでは市営墓地の募集をすると抽選になる状況でしたが、近年は余るようになってきました。余らせておくのはもったいないので、これまでの1世帯あたり1区画という制限から、隣り合ったところであれば、2区画まで使えるようにします。現在余裕がある市営墓地を有効活用していただけるよう条例を改正するものです。

「議案第63号」

駅前駐車場の20分間無料につきまして、無料にする駐車場をi-ビル駐車場から地下駐車場に換えるという内容です。

以上、本日の説明でございます。

質疑応答の概要

■シン学校プロジェクト

(記者) 具体的に建て替えをどの時期にやるかは、まだ決まっていないということですか？

(市長) はい。実際には令和6年度まで1年ちょっとかけて、どの学校のどの校舎を建て替えるか絞り込みを行います。築60年以上の校舎がある学校は23校あります。ひとつの校舎を建て替えるのに約15億円かかると言われていますので、単純に150億円を割ると10校ほどになります。どの学校をどのように優先順位を付けていくかをできるだけオープンに議論した上で、令和6年度中にこれから10年間をかけて小中学校の校舎をどのように直していくかという目途を付けたいと考えています。

(記者) 市民も参加して、このミーティングを行うわけですか？

(市長) はい。次の半世紀を見据えて、それぞれの地域がどうあったらいいか、教育だけでなく、児童館や公民館などのあり方も含めて大いに議論してもらいたいと思っています。

(記者) 必ずしも古い順に校舎を直していくわけではないということですか？

(市長) はい。小信中島小、北部中にある今年で築69年の校舎はこれから数年経てば、建築物としての機能が危ぶまれてくるので、少なくとも取り壊しという事態にはなるでしょう。そういうことで優先度合いは高いですが、古いものから単純に新しく建て直すことにはならないと考えて、オープンな議論や検討の場を設けることになります。

(記者) これからの時代にふさわしいとなると、例えばLGBTQの子どもたちに配慮した部屋を設ける可能性はありますか？

(市長) そうですね。決められた区画の教室に何十人の子が集まって、1人の大人がしゃべることをひたすら従順に聞き取るという明治以前からの義務教育の姿というものがもうもたないと、もっと違うやり方があるとみんな分かってきていると思います。愛知県さんも一宮高校の敷地内に新しい不登校対策の夜間中学校をつくるという話になっていますが、本当に学校に週5日通わなければいけないのかというところから議論が始まっています。もちろんいろいろな議論がある中で、各小中学校の今後の生徒・児童数の増減がある程度分かっているわけですから、今の学区のあり方も含めて

いろいろな議論や検討が進むことを期待しています。

(記者) 例えば学校の統廃合も、この議論の中で考えていくということでしょうか？

(市長) もちろん、議論や検討の俎上には載ります。一宮市は、1 学年 1 クラスはキープできているため、差し迫った統廃合問題は抱えていません。ただ、本当にそれでいいのかという考えもあります。例えば、茨城県の水戸市さんは 1 学年 1 クラスになったところを小規模特例校として、英語やスポーツ、プログラミングに特化し、学区の縛りなく市内のどこからでも通えるということをやってらっしゃるそうです。一宮市もいろいろなアイデアを出して議論をしてもらえたらいいと思っています。

(記者) 公共施設の再配置のようなことを、この議論の中で結び付けていくのですか？

(市長) はい。それもあって教育分野以外の福祉部や子ども家庭部も内部の検討体制に入ってもらっています。文部科学省も教育だけでなく他分野を巻き込んで合築したら補助金を 2 分の 1 出すと言ってくれていますので、国の後押しをうまく使って公共施設の再配置や見直しを教育以外の分野でも進めて行けたらいいなと思っています。

■令和 5 年度 9 月補正予算(案)に計上された主な事業

(記者) 一宮駅東口の混雑緩和対策について、i-ビルのシステム改修などは今年度中に行うということですか？

(市長) 今年度中に工事を行い完了させます。新しいシステムを稼働させます。

(記者) i-ビルの立体駐車場は無料時間が無くなるということですか？

(市長) 現在、入場から 20 分以内は無料ですが、改修後の令和 6 年 4 月からは無料ではなくなります。

■その他

(記者) 先般、無店舗型風俗店での送迎業務の副業が明らかになり消防職員が処分されましたが、市長の受け止めをお聞きかせください。また、市民・県民の方もなぜ一宮市の消防だけがこんなに不祥事が多いのか疑問に感じていると思いますが、市長はどこに原因があると見ていますか？

(市長) 今年 4 月から新体制で立て直しを図り、頑張ってくれています。今回明るみに出た副業は令和 3 年のことで、綱紀粛正を図る前のタイミングで行われました。このため、消防長を始め幹部職員の頑張りを私としてはもう少し見たいと思います。ある程度の時間がかかるだろうということで、ここはこらえ時かと思っています。ただ残念なのが、今回副業の通報があって、調査をした時の該当職員の応じる態度があまり良くなかったと聞いているので、公の仕事に就く上での覚悟や、責任感を今一度徹底していかなければいけないと思っています。不祥事が続く原因は特定の何かひとつではなく、簡単ではないということは分かります。だからこそ消防長も苦勞していると思います。綱紀粛正や引き締めという言葉を使っていますが、厳しくすることだけが正解なのかも分からない中で、今とにかくいろいろな意見が言えるように風通しを

良くしています。消防という組織の中だけでなく、市役所の中でいろいろな繋がりができるようにと工夫をしてもらっています。もう少し時間をかけて、あるべき姿に持っていければと受け止めています。

(記者) 調査に応じる態度が良くなかったというのはどういうことですか？

(市長) あまり素直に認めていなかったと聞いています。後からいろいろ追加で出てきて、事実確認に時間を要しました。その結果、我々が最初に情報を認識してから皆さんに発表するまでに時間がかかってしまいました。市の組織全体も疑われるわけで、とても残念に思います。

(記者) 再発防止策として、何か追加でやろうということは特に決まっていますか？

(市長) 現時点では4月から始まった取り組みがまだ半年も経っていませんので、特に追加でさらに策を講じるということは考えていません。